

新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ

G. ドニゼッティ

ルチア

Lucia di Lammermoor

2021年4月18日(日)~25日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 2021年3月27日(土)前売開始



2017年公演より

ドラマは“狂乱の場”でクライマックスに…！ 政略結婚が引き裂く愛の悲劇

偽りの手紙をきっかけに政略結婚を承諾させられ、絶望のあまり狂気に陥ったヒロイン、ルチアが歌う「狂乱の場」で有名な、ベルカント・オペラの最高傑作。ジャン＝ルイ・グリンドア演出の美しいプロダクションがスペインのバレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿、モナコ・モンテカルロ歌劇場での上演を経て凱旋します。

ヒロインのルチアには、欧米の主要歌劇場で活躍する美貌のスター・ソプラノ、イリーナ・ルング、恋人エドガルドにはベルカントのスター・テノールとして世界の歌劇場を席卷中のローレンス・ブラウンリー、ルチアの兄エンリーコには日本人離れしたスケールのバリトン、須藤慎吾が登場。そして指揮には、ヨーロッパの主要歌劇場で話題をさらう女性指揮者スペランツァ・スカップッチがいよいよ新国立劇場デビューします。オペラファン必見の出演者陣です。

* 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ドラマは“狂乱の場”でクライマックスに。政略結婚で引き裂かれた愛の悲劇

ベルカント・オペラの最高傑作『ルチア』。クライマックスは恋人の裏切りを知らされ、絶望のあまり狂気に陥ったヒロイン、ルチアが歌う「狂乱の場」。プリマ・ドンナが超絶技巧を駆使して錯乱状態を表現する、最大の見せ場です。

ジャン＝ルイ・グリンド演出『ルチア』は、2017年に新国立劇場・モンテカルロ歌劇場共同制作として新国立劇場で世界初演を迎え、19年にはスペイン・バレンシアのソフィア王妃芸術宮殿、続いてモンテカルロ歌劇場で上演され、好評を博しました。このプロダクションは19世紀ヨーロッパを席卷したロマン主義の自然観を重視し、スコットランドの荒涼たる海と丘の情景と館の情景が展開して、ルチアの幻想の場面ではあっと驚く転換で観客を異次元へと誘い、終幕でドラマは自然へと帰結します。

独自の視点を入れながらも、音楽に寄り添い、格調高く展開するグリンド版『ルチア』は、オペラ初心者の方にもお薦めです。

時代時代のトップソプラノ達が演じてきたルチアを、圧巻の美貌とテクニックで世界を魅了するイリーナ・ルングが歌います。共演者にはベルカントのスターとして世界を席卷中のローレンス・ブラウンリー、圧巻のスケールの歌唱が魅力の須藤慎吾が出演します。

指揮には、世界の歌劇場を席卷し、ベルギーの名門ワロニー歌劇場音楽監督としても活躍する女性指揮者スペランツァ・スカップッチが日本でのオペラ・デビューを飾ります。



<「ルチア」あらすじ>

【第1部】17世紀スコットランドのレイヴンスウッド城。エンリーコ・アシュトン卿はレイヴンスウッド家を倒したが、家をさらに安泰させるには妹ルチアの政略結婚しかないを目論んでいる。ところが家臣ノルマンノによれば、ルチアは宿敵レイヴンスウッド家のエドガルドと愛し合っているという。エンリーコは妹の不実の恋に怒る。エドガルドとの愛だけが生きる希望であるルチアは、庭園の泉で彼を待っていた。やってきたエドガルドは、夜明け前にフランスへ発たねばならないので、それまでにエンリーコと和解して2人の愛を認めてもらおう、と語る。しかしルチアは時期尚早だと諭す。エドガルドは結婚を誓ってルチアの指に指輪をはめる。

【第2部第1幕】政略結婚の準備が進んでいたが、ルチアは、自分はすでに他の人と結婚の誓いを立てた、と訴える。そんな妹にエンリーコは、エドガルドの手紙を渡す。これは偽の手紙なのだが、彼の心変わりを伝える内容に絶望のあまり、ルチアは結婚を承諾する。大広間でアルトゥーロ・バックロウ卿との婚礼の儀式が行われ、ルチアは結婚契約書にサインをする。そこにエドガルドが帰還。結婚契約書を見て愕然とし、指環を外してルチアを呪う。

【第2部第2幕】エドガルドの住む塔にやってきたとエンリーコ。2人は明朝、決闘することを約束する。レイヴンスウッド城の大広間で婚礼の宴が続いているが、そこに血まみれのルチアが現れる。悲しみのあまり正気を失ったルチアは、寝室で夫を刺し殺してしまったのだ。ルチアは幻のエドガルドと話したのち、息を引き取る。決闘の場であるレイヴンスウッド家の墓地で敵の到着を待つエドガルドの前に、ルチアの葬列がやってくる。ルチアの死を知ったエドガルドは、天国で一緒になろう、とルチアの後を追うのだった。



<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】スペランツァ・スカップッチ

Speranza SCAPPUCCI

イタリア生まれ。ジュリアード音楽院、サンタ・チェチーリア音楽院卒業。17年よりベルギー王立ワロニー歌劇場音楽監督。ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、チューリヒ歌劇場などで活躍。最近の主な活躍に、ローマ歌劇場『夢遊病の女』、トリノ王立歌劇場『フィガロの結婚』『チェネレントラ』、リセウ大劇場『アッティラ』、ロサンゼルス・オペラ『ラ・ボエーム』、サンタフェ・オペラ『連隊の娘』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『イタリアのトルコ人』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『エルサレム』『マノン・レスコー』『カルメン』など。チューリヒ歌劇場には『連隊の娘』でデビュー。ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』で大成功を収める。昨シーズンはチューリヒ歌劇場『ラ・ボエーム』、ウィーン国立歌劇場『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『チェネレントラ』、シャンゼリゼ劇場『マリア・ストウアルダ』、ワシントン・ナショナル・オペラ『トスカ』、ワロニー歌劇場『アイダ』『清教徒』を指揮し、ザクセン州立歌劇場に『トスカ』で待望のデビュー。19/20シーズンはワロニー歌劇場で『蝶々夫人』『チェネレントラ』を指揮したほか、ウィーン国立歌劇場『蝶々夫人』に登場、カナディアン・オペラ・カンパニーへ『セビリアの理髪師』でデビューした。20年9月にはトウルーズ・キャピトル劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、12月にはバルセロナ・リセウ大劇場『椿姫』を指揮している。新国立劇場初登場。



【演出】ジャン＝ルイ・グリンダ**Jean-Louis GRINDA**

モナコ生まれ。2007年よりモンテカルロ歌劇場総監督。2016年からオランジュ音楽祭総監督も務める。1996年から2007年までベルギー・ワロニー王立歌劇場の総監督を務め、折衷的、かつ独創的なレパートリーを確立してきた。自身もワロニー王立歌劇場で03年から04年にワーグナー「ニーベルングの指環」4部作、05年にレオンカヴァッロ『道化師』、さらにミュージカルの分野でもモーリー・イェストン『タイタニック』、ジュリー・スタイン『シュガー』などを演出している。またフランスを中心に海外の劇場でも活躍。イスラエル・オペラ、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、テアトロ・ムニシパルなどで演出している。05年に上演した子供向けミュージカル『ソル・アン・シルク』は解りやすく様々な要素を取り入れた演出で10万人を超える観客が観劇している。また、パリのポルト・サン＝マルタン劇場で上演したミュージカル『雨に唄えば』は01年の最優秀ミュージカル作品としてモリエール賞を受賞している。モンテカルロ歌劇場では『魔笛』『ラ・ペリコール』『こうもり』『ドン・ジョヴァンニ』『ホフマン物語』『ファルスタッフ』『リゴレット』『メフィストフェレ』『子供と魔法』『ナヴァラの娘』『ジョコンダ』『トスカ』『ロメオとジュリエット』『椿姫』『タンホイザー』などを演出している。

**【ルチア】イリーナ・ルング****Irina LUNGU**

ロシア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー在籍中にムーティによりスカラ座2003/04シーズンオープニング『モイーズとファラオン』アナイ役に抜擢され、同劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールなどに出演。スカラ座での『椿姫』ヴィオレッタは07年にデビュー後、08年、13年にも出演。パルマ王立歌劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場などに、『椿姫』ヴィオレッタ、『愛の妙薬』アディーナ、『リゴレット』ジルダ、『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどで出演。最近では、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』ジルダ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場で『椿姫』、バイエルン州立歌劇場『トゥーランドット』リユー、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パリ・オペラ座とローマ歌劇場で『リゴレット』ジルダ、スカラ座で『ファルスタッフ』ナンネッタ、ポーロニヤ歌劇場、ヴェローナ歌劇場で『ルチア』などに出演している。20年秋にはオビエド歌劇場『清教徒』に出演。新国立劇場では17年『椿姫』に出演した。

**【エドガルド】ローレンス・ブラウンリー****Lawrence BROWNLEE**

アメリカ出身。各紙でベルカントの国際的スターと称賛されるテノール。2001年メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンスル・オーディション優勝。ベルリン・フィル、フィラデルフィア管、シカゴ響、ニューヨーク・フィルなど著名オーケストラの多くと共演し、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアルなどの一流歌劇場へ出演。昨シーズンはパリ・オペラ座『ドン・パスクワーレ』エルネスト、『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、チューリヒ歌劇場『オリー伯爵』タイトルロール、『夢遊病の女』エルヴィーノ、ベルリン・ドイツ・オペラ『無遊病の女』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『清教徒』アルトゥーロ、ヒューストン・グラッド・オペラ『真珠採り』ナディール、シアトル交響楽団とのツアーなどに出演した。19/20シーズンはシカゴ・リリック・オペラで得意の『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、オランダ国立オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロに出演。ヒューストン・グラッド・オペラで『ラ・ファヴォリータ』フェルランドにロールデビュー。20年12月にはパレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『チェネレントラ』、21年1月にはローマ歌劇場『清教徒』(配信公演)に出演。サルサダンサーでもあり、写真家でもあり、大のフットボールファンでもある。新国立劇場には06年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵以来の出演となる。

**【エンリーコ】須藤慎吾****SUDO Shingo**

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊音楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。99年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。06年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『椿姫』ドゥフォーール男爵、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピアに出演。今年7月には『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演でエスカミーリョに出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ
G.ドニゼッティ **ルチア**
Gaetano DONIZETTI/ Lucia di Lammermoor
全2部(3幕)〈イタリア語上演/日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2021年4月18日(日)14:00/21日(日)14:00/23日(金)18:30/25日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2021年3月27日(土)

※チケット発売日は当初発表から変更となりました。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

| | | | |
|------------------|--------------------|----------|-------------------|
| 指揮 | スペランツァ・スカップッチ | ルチア | イリーナ・ルング |
| Conductor | Speranza SCAPPUCCI | Lucia | Irina LUNGU |
| 演出 | ジャン＝ルイ・グリнда | エドガルド | ローレンス・ブラウンリー |
| Production | Jean-Louis GRINDA | Edgardo | Lawrence BROWNLEE |
| 美術 | リュディ・サブーンギ | エンリーコ | 須藤慎吾 |
| Set Design | Rudy SABOUNGHI | Enrico | SUDO Shingo |
| 衣裳 | ヨルゲ・ヤーラ | ライモンド | 伊藤貴之 |
| Costume Design | Jorge JARA | Raimondo | ITO Takayuki |
| 照明 | ローラン・カスタン | アルトゥーロ | 又吉秀樹 |
| Lighting Design | Laurent CASTAINGT | Arturo | MATAYOSHI Hideki |
| 再演出 | 澤田康子 | アリーサ | 小林由佳 |
| Revival Director | SAWADA Yasuko | Alisa | KOBAYASHI Yuka |
| 舞台監督 | 村田健輔 | ノルマンノ | 菅野 敦 |
| Stage Manager | MURATA Kensuke | Normanno | KANNO Atsushi |

| | |
|---------------|------------------------------|
| 合唱指揮 | 三澤洋史 |
| Chorus Master | MISAWA Hirofumi |
| 合唱 | 新国立劇場合唱団 |
| Chorus | New National Theatre Chorus |
| 管弦楽 | 東京フィルハーモニー交響楽団 |
| Orchestra | Tokyo Philharmonic Orchestra |

| | |
|-------------------|-------------|
| 芸術監督 | 大野和士 |
| Artistic Director | ONO Kazushi |

共同制作:モンテカルロ歌劇場

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/lucia/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのご願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演は、レパトリー演目です。宣材として過去の上演の舞台写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】